2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月12日

上場会社名　　株式会社やまや　　上場取引所　東
コード番号　　9994　　ＵＲＬ　https://www.yamaya.jp
代表者　　（役職名）代表取締役会長　　（氏名）山内　英靖
問合せ先責任者　（役職名）執行役員経理部長　　（氏名）田原口　裕基　　ＴＥＬ　022-742-3114
半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　2026年11月27日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有　　（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	79,423	1.5	853	△34.4	968	△26.7	544	△27.1
2026年３月期中間期	78,270	△1.6	1,301	△46.6	1,320	△46.9	746	△51.8

（注）包括利益　2027年３月期中間期　691百万円（△41.8%）　2026年３月期中間期　1,188百万円（△33.6%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	50.21	―
2026年３月期中間期	68.84	―

（参考）EBITDA　2027年３月期中間期　1,636百万円（△16.0%）2026年３月期中間期　1,948百万円（△37.5%）
*EBITDA＝経常利益+支払利息+減価償却費+のれん償却額

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	61,885	39,806	60.3
2026年３月期	64,981	39,574	57.1

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　37,315百万円　2026年３月期　37,108百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	37.00	―	38.00	75.00
2027年３月期	―	36.00			
2027年３月期（予想）			―	36.00	72.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2026年３月期第２四半期末配当金の内訳　　普通配当35円00銭　記念配当２円00銭（会社設立55周年記念配当）
2026年３月期期末配当金の内訳　　普通配当35円00銭　記念配当３円00銭（会社設立55周年記念配当）

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	161,000	1.2	2,700	△24.4	2,800	△24.3	1,500	△27.8	138.36

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

② ①以外の会計方針の変更　：無

③ 会計上の見積りの変更　：無

④ 修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	10,847,870株	2026年３月期	10,847,870株
② 期末自己株式数	2027年３月期中間期	6,556株	2026年３月期	6,456株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	10,841,337株	2026年３月期中間期	10,841,444株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、４ページ「１.経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 11
（セグメント情報等の注記） …… 11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 12

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

［事業全般の概況］

当中間連結会計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続いたものの、中東情勢の緊迫化による原材料価格やエネルギー価格の高止まりに加え、物価上昇による消費者の節約志向も継続しており、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、豊かな生活をお客様にお届けすることを基本姿勢として、刻々と変化する社会環境と多様化するお客様ニーズへ対応した商品・サービスを提供し、顧客満足度の向上に取り組んでまいりました。

当中間連結会計期間における当社グループ連結業績は、売上高が794億23百万円（前年同期比1.5％増）、営業利益が８億53百万円（同34.4％減）、経常利益が９億68百万円（同26.7％減）、親会社株主に帰属する中間純利益が５億44百万円（同27.1％減）となりました。

第２四半期期間においては、昨年より気温が低い日が続いたことに加え、長雨などの影響が響き、売上高は全体として低調に推移しました。酒販事業における10月の酒税改正前の駆け込み需要や、外食事業における直営店増加の効果で売上高は前年を上回ったものの、人件費や光熱費等の高騰に伴う販管費の増加分を補うことはできず、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は減少しました。

当中間連結会計期間末において、酒販事業356店（前年同期比３店増）、外食事業587店（同12店減）、グループ合計店舗数943店（同９店減）を運営しています。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

［酒販事業］

酒販事業における売上高は648億49百万円（前年同期比1.0％増）、営業利益は７億44百万円（同28.6％減）となりました。

当中間連結会計期間は、第１四半期より展開しているアメリカの食文化や飲用シーンを提案する「アメリカンダイナー」売場を継続するとともに、旬の話題や地域イベントと連動した販促を積極的に推進しました。アジア競技大会の日本開催に合わせた「アジア・名古屋めしフェア」や、11月の首里城復元完成を見据えて「沖縄フェア」も開催し、話題性の高い商品提案により多くのお客様にご好評をいただきました。また、10月に控えた酒税改正に伴う駆け込み需要に対しては、増税対象となる新ジャンル、発泡酒、チューハイ等のケース販売を中心に売場での露出を最大限に強化したほか、「やまや公式アプリ」を活用した限定クーポンの配信などデジタル販促を組み合わせることで、需要の確実な取り込みに努めました。さらに、全国各地で水害が相次いだこともあり、日頃からお気に入りの商品を備蓄する「マイフェイバリット・ローリングストック」の推奨および提案をさらに強化し、地域の安全・安心な暮らしに寄り添った売場提案に取り組みました。

新規出店として、美濃加茂店（岐阜県）を開店し、竜舞店（群馬県）を閉店しました。これにより、2026年９月末における酒販事業の総店舗数は、356店（前年同期比３店増）となりました。

［外食事業］
外食事業における売上高は147億89百万円（前年同期比3.6％増）、営業利益は１億８百万円（同57.5％減）となりました。
外食業界におきましては、外国人観光客の増加に伴い回復の動きが続いているものの、継続的な物価上昇による消費者の節約志向や、体験価値などへの選別志向が続き、原材料費、光熱費、人件費、建築費などの上昇も相まって、事業を取り巻く環境は厳しいものになっております。
このような状況の中、当社子会社のチムニー株式会社では、「ギョニカツくん」を特別価格で提供した「食べつくせ！夏の元気祭り」、話題のクラフト焼酎を試しやすい価格で提案した「鹿児島焼酎ハイボールフェア第３弾」を開催し、ご好評をいただきました。あわせて、料理家・栗原心平氏とのコラボメニューの継続展開など、季節感や体験価値を感じられるメニュー提案に努めました。株式会社つぼ八では、「夏のごちそうサマーフェア」、「つぼ八町中華」を開催しました。さらに、お客様の節約志向に応える取り組みとして、生ビール290円のビール祭りや、全品ゾロ目価格の「初秋のごちそうフェア」を実施し、お得感と食の楽しさを提供することで来店機会の創出を図りました。
店舗開発としましては、チムニーで直営店３店舗を新規出店、つぼ八でＦＣ店３店舗を直営化するとともに、店舗のブラッシュアップ（改装、業態転換、修繕等）を進めてまいりました。
2026年９月末における外食事業直営店は、チムニーが328店、つぼ八が12店の計340店（前年同期比13店増）、ＦＣ店は、チムニーが125店、つぼ八が122店の計247店（同25店減）となり、外食事業の総店舗数は587店（同12店減）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況
①資産、負債及び純資産の状況
(資産)
総資産は、前連結会計年度末と比べ30億95百万円（△4.8％）減少し、618億85百万円となりました。
流動資産は、現金及び預金が16億87百万円、商品及び製品が10億50百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べて29億93百万円（△7.4％）減少し、373億15百万円となりました。
固定資産は、前連結会計年度末と比べて１億２百万円（△0.4％）減少し、245億70百万円となりました。

(負債)
総負債は、前連結会計年度末と比べて33億27百万円（△13.1％）減少し、220億79百万円となりました。
流動負債は、買掛金が８億70百万円、1年内返済予定の長期借入金が10億６百万円及び、未払法人税等が４億65百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べて26億16百万円（△13.4％）減少し、169億43百万円となりました。
固定負債は、前連結会計年度末と比べて７億11百万円（△12.2％）減少し、51億36百万円となりました。

(純資産)
純資産は、前連結会計年度末と比べて２億31百万円（0.6％）増加し、398億６百万円となりました。
この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の57.1％から60.3％となりました。

②連結キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べて16億87百万円（△13.5%）減少し、107億75百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）
営業活動で得られた資金は、前年同期と比べ18億25百万円減少し、６億16百万円となりました。
主な要因は、税金等調整前中間純利益が７億70百万円、仕入債務の減少が８億70百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）
投資活動で使用した資金は、前年同期と比べて５億14百万円減少し、６億26百万円となりました。
主な要因は、有形固定資産の取得による支出が６億23百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）
財務活動で使用した資金は、前年同期と比べて６億94百万円増加し、16億77百万円となりました。
主な要因は、長期借入金の返済による支出が12億35百万円、配当金の支払額が４億11百万円あったこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明
業績予想につきましては、現時点では2026年11月６日に公表した数値からの変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,464	10,776
売掛金	5,704	5,434
商品及び製品	20,090	19,040
仕掛品	83	77
原材料及び貯蔵品	33	37
前払費用	897	840
その他	1,175	1,247
貸倒引当金	△140	△137
流動資産合計	40,308	37,315
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,435	30,450
減価償却累計額	△24,676	△24,713
建物及び構築物（純額）	5,759	5,736
機械装置及び運搬具	1,654	1,665
減価償却累計額	△1,535	△1,549
機械装置及び運搬具（純額）	119	116
工具、器具及び備品	10,026	10,115
減価償却累計額	△9,196	△9,302
工具、器具及び備品（純額）	830	813
リース資産	1,886	1,894
減価償却累計額	△1,515	△1,531
リース資産（純額）	370	363
土地	4,818	4,818
建設仮勘定	81	38
有形固定資産合計	11,979	11,886
無形固定資産		
ソフトウエア	131	134
のれん	1,164	1,089
その他	16	16
無形固定資産合計	1,312	1,239
投資その他の資産		
投資有価証券	1,381	1,720
関係会社株式	1,295	1,094
破産更生債権等	63	65
長期前払費用	145	171
退職給付に係る資産	73	77
差入保証金	6,895	6,816
繰延税金資産	1,526	1,499
その他	58	61
貸倒引当金	△59	△62
投資その他の資産合計	11,380	11,443
固定資産合計	24,672	24,570
資産合計	64,981	61,885

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,104	9,233
短期借入金	2,300	2,335
１年内返済予定の長期借入金	1,470	464
リース債務	33	35
未払金	1,966	1,637
未払費用	935	965
未払法人税等	670	205
未払消費税等	714	531
預り金	215	228
賞与引当金	790	774
その他	359	532
流動負債合計	19,560	16,943
固定負債		
長期借入金	1,507	1,278
退職給付に係る負債	354	360
リース債務	372	362
役員退職慰労引当金	724	314
資産除去債務	1,606	1,610
その他	1,281	1,209
固定負債合計	5,847	5,136
負債合計	25,407	22,079
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,247	3,247
資本剰余金	5,815	5,815
利益剰余金	27,054	27,186
自己株式	△9	△9
株主資本合計	36,107	36,240
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	996	1,073
退職給付に係る調整累計額	3	1
その他の包括利益累計額合計	1,000	1,075
非支配株主持分	2,465	2,490
純資産合計	39,574	39,806
負債純資産合計	64,981	61,885

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	78,270	79,423
売上原価	56,098	56,810
売上総利益	22,172	22,612
販売費及び一般管理費	20,871	21,759
営業利益	1,301	853
営業外収益		
受取利息	13	26
受取手数料	39	37
受取配当金	16	21
持分法による投資利益	－	12
有価証券売却益	－	23
その他	27	73
営業外収益合計	96	194
営業外費用		
支払利息	42	43
店舗改装費用	21	16
持分法による投資損失	4	－
その他	8	19
営業外費用合計	77	79
経常利益	1,320	968
特別利益		
固定資産売却益	－	5
受取補償金	71	－
受取保険金	56	－
特別利益合計	128	5
特別損失		
固定資産除却損	5	－
減損損失	177	173
その他	31	29
特別損失合計	214	202
税金等調整前中間純利益	1,233	770
法人税、住民税及び事業税	336	172
法人税等調整額	△17	△6
法人税等合計	319	165
中間純利益	914	605
非支配株主に帰属する中間純利益	168	60
親会社株主に帰属する中間純利益	746	544

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	914	605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	273	90
退職給付に係る調整額	0	△3
その他の包括利益合計	274	86
中間包括利益	1,188	691
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	999	619
非支配株主に係る中間包括利益	189	72

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,233	770
減価償却費	510	549
長期前払費用償却額	13	25
減損損失	177	173
固定資産売却損益（△は益）	－	△5
固定資産除却損	5	－
有価証券売却損益（△は益）	－	△23
受取補償金	△71	－
受取保険金	△56	－
のれん償却額	75	75
持分法による投資損益（△は益）	4	△12
支払利息	42	43
受取利息及び受取配当金	△29	△48
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△42	1
賞与引当金の増減額（△は減少）	△36	△15
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	12	6
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	21	△410
売上債権の増減額（△は増加）	1,508	269
棚卸資産の増減額（△は増加）	3,410	1,052
仕入債務の増減額（△は減少）	△4,532	△870
未払金の増減額（△は減少）	△62	△328
未払消費税等の増減額（△は減少）	314	△183
その他	516	184
小計	3,013	1,252
利息及び配当金の受取額	28	47
受取補償金の受取額	71	－
受取保険金の受取額	51	－
法人税等の還付額	1	2
利息の支払額	△43	△42
法人税等の支払額	△667	△644
その他	△13	－
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,442	616
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,053	△623
有形固定資産の売却による収入	－	5
有形固定資産の除却による支出	△45	△13
長期前払費用の取得による支出	△31	△35
無形固定資産の取得による支出	－	△9
有価証券の売却による収入	－	23
差入保証金の差入による支出	△121	△89
差入保証金の回収による収入	99	128
預り保証金の返還による支出	△25	△25
預り保証金の受入による収入	47	17
その他	△10	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,141	△626

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△400	35
長期借入金の返済による支出	△233	△1,235
リース債務の返済による支出	△9	△17
自己株式の取得による支出	－	△0
配当金の支払額	△292	△411
非支配株主への配当金の支払額	△47	△47
財務活動によるキャッシュ・フロー	△983	△1,677
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	317	△1,687
現金及び現金同等物の期首残高	12,588	12,463
現金及び現金同等物の中間期末残高	12,905	10,775

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	酒販事業	外食事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	63,993	14,276	78,270	－	78,270
セグメント間の内部売上高又は振替高	198	－	198	△198	－
計	64,191	14,276	78,468	△198	78,270
セグメント利益	1,043	254	1,297	3	1,301

（注）１．調整額はセグメント間取引消去及び固定資産の調整額であります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

セグメントごとの固定資産減損損失の計上額は、「酒販事業」において97百万円、「外食事業」において79百万円であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	酒販事業	外食事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	64,633	14,789	79,423	－	79,423
セグメント間の内部売上高又は振替高	215	－	215	△215	－
計	64,849	14,789	79,638	△215	79,423
セグメント利益	744	108	853	－	853

（注）１．調整額はセグメント間取引消去及び固定資産の調整額であります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

セグメントごとの固定資産減損損失の計上額は、「酒販事業」において90百万円、「外食事業」において82百万円であります。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

※　現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
現金及び預金勘定	12,906百万円	10,776百万円
別段預金	△0	△0
現金及び現金同等物	12,905	10,775